

# けやきの村便り

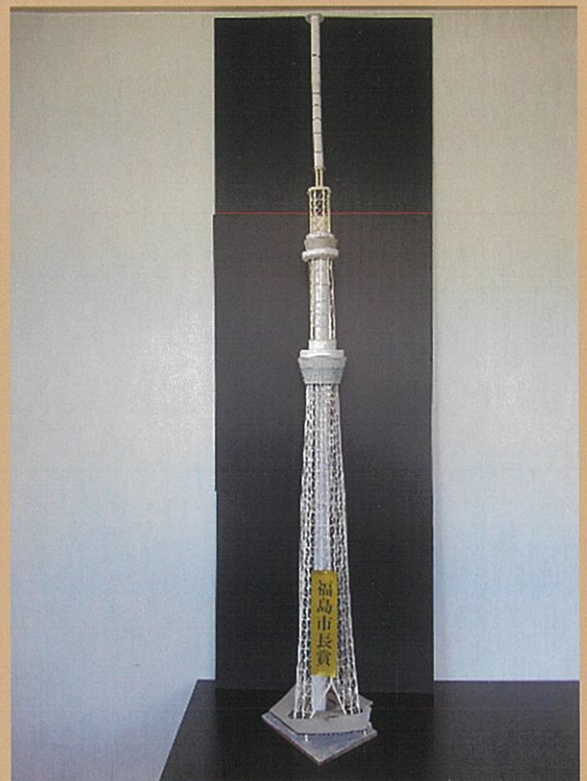
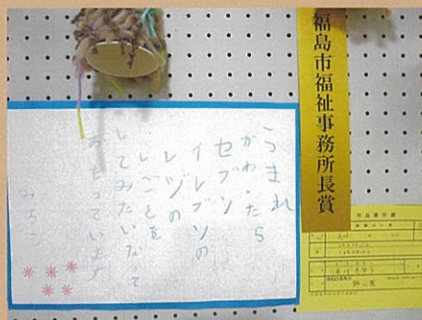
発行●社会福祉法人けやきの村 〒960-0261 福島市飯坂町中野字高田前2-7 TEL024-542-3275 FAX024-542-6978  
E-mail:keyakinomura@deluxe.ocn.ne.jp

社会福祉法人けやきの村経営理念「あなたとともに そして あなたのために」

## 第48回福島市福祉作品展



●福島市福祉  
事務所長賞受賞  
【題名】うまれかわったら  
作：菊地美智子



●福島市長賞受賞  
【題名】スカイツリー in 福島 作：佐久間久明

### 理事長年頭の挨拶

令和5年1月4日の仕事始めにあたり、理事長から職員に対して行った「年頭のあいさつ」から一部抜粋し、社会福祉法人けやきの村の事業推進の方向をお示ししたいと思います。

令和5年、2023年の年頭にあたり、職員の皆様にご挨拶申し上げます。

私たちの日常を3年もの間奪い続けている新型コロナウイルスは、この冬第8波の渦中にあります。いつ誰が罹ってもおかしくないという状況のなか、クラスターだけは何とか防ぎたいという思いで法人全体で感染防止に取り組んでいただいたことに心から感謝を申し上げます。加えて職員の皆様には、日常の再開を前提に、さまざまな行事や日常の支援を中止にすることが多く、どうしてもうしたらできるかということを中心に最大のミッションとして取り組んでいただきました。その結果、趣向や工夫を凝らした内容で納涼盆踊り大会、けやき祭、芋煮会そしてクリスマス会を開催し、ご利用者の笑顔を取り戻すことができました。これもひとえに職員の皆様のご努力の賜物であったこの場をお借りして感謝申し上げます。

しかし、その一方で、新型コロナウイルス感染症対策により鳴りを潜めていたインフルエンザがこの冬、流行し始めております。職員の皆様には、引き続き気を引き締め、三密を避け、検温、手指消毒やマスクの着用といった基本的な対策の継続をお願いいたします。

さてこのような状況のなか、法人の経営理念に基づき策定した2021年度から3年を期間とした「社会福祉法人けやきの村福祉ビジョン2021」は、1年目の取組み評価と状況の変化に対応するため昨年3月に改訂をしました。拠点ごとの経営の安定、新たな経営理念の浸透、新型コロナウイルス、自然災害時の事業継続計画（BCP）の不断の見直し等の重点項目に、新たに共生社会実現に向けた「地域との連携、多機関との連携強化」、「青松苑の事業のあり方、移行の検討」、「新規事業の検討」を追加して実施してきました。

法人の経営面での概況について申し上げます。経営的には2022年11月末時点で法人全体としての事業活動による収入は当初予算比+1.12%ですが、対前年同期との比較ではわずかですが減額という状況です。ウクライナ情勢に端を発したエネルギー価格の急騰は、



あらゆる物品等の価格高騰につながり、法人全体で食料費、光熱水費等で1,000万円以上の負担増となっており、2022年度の決算については予断を許さない状況で推移しています。

次に、法人経営において重要な指標の一つである人件費率について申し上げます。法人として最優先で進めている「人材確保」は、支援の質を上げ職員一人ひとりがより良いパフォーマンスを発揮できる環境を整えるうえで欠くことができないものです。昨年、必要な人材の確保を進めた結果、4月当初164名だった職員数は本年1月当初で169名となりました。しかし、当然のことながら職員数の増加により人件費も増加し人件費率も上昇しています。しかし収入面でも要因として考えられるのが定員が確保できていないことと利用率が低迷している事業があることです。つまり、収入の伸び悩みが人件費の上昇をカバーしきれず、結果として人件費率の上昇につながっているということです。ちなみに昨年11月までの利用率は、けやきの村は生活介護が96.2%、就労Bと就労移行を併せた就労が79.7%、施設入所が97.1%、短期入所が45.2%、青松苑は生活介護が84.3%、施設入所が79.9%、静心園は生活介護が95.9%、施設入所が99%、短期入所が87.7%、桃の里は60%という状況です。利用率が90%以下の事業が多くなっています。以上のことから2023年度は、法人全体の最重要課題として定員の確保と利用率90%以上を新たな目標にしなければならぬということをお知らせします。

2022年度において重点項目として掲げた内容について、これまでの取組みと今後の取組みについて申し上げます。

一つ目は、「人事考課、勤務評定制度の見直し」です。2022年度は、「人事評価制度検討委員会」を立ち上げ、新たな評価項目の内容等の検討を進めています。2023年度からの本格実施、2024年度からの給与への反映というタイムスケジュールを進めていきます。なお、人事評価制度に

おいては、経営理念について職員一人ひとりが理解を深めることを前提に、目指すべき「理想の人財像」を具体的に描きます。そのため、「人事評価制度検討委員会」と並行して「経営理念浸透委員会」も走らせており、2023年度に具体的な取組みをスタートできるような検討を重ねています。

二つ目は、「次世代を担う職員の育成と、若手の起用」です。2022年度において、S・Y・ワークスが開催している「福祉×経営カレッジ」に職員2名を参加させるとともに、社会福祉法人全国経営者協議会青年部会にも職員3名を参加させ、法人経営のトップの皆さんや県内、そして全国の若手職員とともに学びを深めてもらっており、確実に成果として現れております。2023年度も「福祉×経営カレッジ」には新たに職員を参加させ、次世代の人材育成に引き続き取り組んでいきます。40年を経過した青松苑、静心園のハード面での充実をどのように行うのかと併せて新たな事業展開を見据えたとき、これからの数年間が非常に重要であると考えます。つまり、法人のトップとして目指すべき将来像を具体的にどう示すのか、そしてこの期間に次世代を担う職員の育成と若手の経営部門への起用を進めるのに、法人の未来がかかっているといつても過言ではありません。

三つ目は、「長期的な視点からの事業の展開」です。理事会等でも報告させていただいていますが、現在、新規事業の展開を検討しており、地域における障害福祉の拠点として機能できる法人を目指すべき取組みを本格化しなければなりません。法人として、現状の提供サービスを維持することが前提ではなく、明確な将来像を描きそして新たな事業展開分野に焦点を定め進めていきます。そして必要があればスクラップ&ビルドも含め地域が必要としている事業を展開していきます。

四つ目は、「支援の質の向上」です。意思決定支援を核とした権利擁護支援を充実させるためには、一人ひとりの職員が提供する支援・サービスの質の向上を図ることが必要となりますが、2022年

度においては、残念ながら法人として十分な取組みをすることができませんでした。2023年度は、人事評価制度と両輪で支援の質の向上に向け、専門性の獲得、組織としての取組みを学ぶ機会をつくり出します。そして、職員には、学びを実践に活かす場を提供していきます。

一方、現在職員5名が参加している「第2期あすなる塾」ですが、「福祉×経営カレッジ」を受講している2名にもアドバイザーで入ってもらい7月から毎月1回開催しています。いろんな意見、考えをもった職員が一つの目的を達成するため喧嘩を諍々の議論をし一つの答えに集約していくプロセスを経験する貴重な機会となっています。また理事長と直接意見交換できる大切な機会ともなっています。12月27日には各施設長に活動の成果をプレゼンテーションしましたが、そのときの施設長との意見交換は貴重な経験になっていると思います。また、継続して進めている各施設における「改善」の取組みをさらに充実するため、理事長、常務理事、事務局長に各施設長も加え各施設を訪問する機会を設定します。これを機会に施設長には管理者という視点だけでなく経営幹部としての資質向上に向けて取組んでいただこうと思います。

五つ目は、「地域との連携、多機関との連携」です。現在、法人として連携している組織は、「福島県北地区障がい福祉連絡協議会」、「福島地域福祉ネットワーク会議」、「共生社会ふくしま実現協議会」があります。また法人独自に関係機関等との連携により実施している災害時の避難支援を地域として進める「中野地区避難支援推進会議」や法人の地域支援推進委員会が進めている「中野地区健康教室」や「いざか子ども食堂」「いしよに」の運営支援」が具体的な実践例となっていますが、コロナ禍であってもさまざまな工夫をしながら連携を深めていく必要があると思っています。

私たち福祉に従事する者が目の前の支援を必要としている方々への支援をするのは当たり前のことです。私たちに求められていることは、地域の

抱える課題を解決するために考え実践することだと信じ、2023年度も新たな展開をしていきたいと思っています。

法人の組織体制の見直しについてお話しします。2024年度からの中長期計画とも関連してきますが、法人の組織体制の見直しを数年かけて段階的に行いたいと思っております。計画達成年度については2026年度末とし、けやきの村旧館、青松苑、静心園の増改築も含めた「地域に根差した社会福祉法人の実現」つまり「地域になくては困る法人」という目標を実現するためのロードマップとリンクしながら進めたいと思っております。

2023年度は、その第一弾として現在の法人事務局の上に常務理事、事務局長、各施設長で構成する「法人経営本部」を位置づけします。今まで施設長は自分の施設の運営管理を担うことを重要な役割としてきましたが、それ以上に必要なこと、重要なことは、法人けやきの村の経営を担う重要な役割を担うということです。今後訪れる財政難、人材難のなかで、社会福祉法人に求められることは多くなってきます。まさに施設長以上の幹部職員には、施設の管理運営責任者ではなく経営者として物事を考え、発言し、議論し、決定していくことが求められると思います。

いずれにしても人材の確保・育成は急務です。明日の法人のために必要な人材を確保し育成するためには、環境、研修そして経験という土台が必要です。2023年はその土台作りのため、今まで不十分だった環境を整えることに全力を注ぎ、優秀な若手人材を創造し、法人の未来を描いていくことを職員の皆様にお伝えし、年頭の挨拶といたします。ありがとうございます。

令和5年1月4日

社会福祉法人けやきの村

理事長 舟山 信悟



## けやきの村家族会連合会永年勤続表彰式

1月18日、社会福祉法人けやきの村家族会連合会による永年勤続表彰式が開催されました。法人10年勤続職員が対象となり、今年度の受賞者は7名の職員が対象で、稲場茂男会長より表彰状と記念品が授与されました。



### 【表彰者名】

齋藤美恵子  
八巻敦俊  
齋藤知美  
佐久間恵都子  
加賀信輝  
渡邊祐輝  
篠田香織

## 令和4年度 表彰者

### ○全国社会福祉大会【全国社会福祉協議会会長表彰】

在職30年以上  
高橋泰子

### ○福島県社会福祉大会【大会会長表彰】

在職15年以上  
小林聡子・三好卓也・白坂健・鈴木結香

### ○福島市社会福祉大会【大会会長表彰】

在職10年以上  
鈴木ふみえ・二階堂郁美・齋藤浩治・荒木唯・渡邊純子・金井智子・佐藤道信・沖野ひとみ・齋藤裕・大内とも子・荒木晴登・佐久間恵都子・八巻敦俊・加賀信輝・渡邊祐輝・齋藤知美・齋藤美恵子・篠田香織・木村和子

### ○全国身体障害者施設協議会【会長表彰】

会員施設で15年以上  
小林聡子・三好卓也・鈴木結香

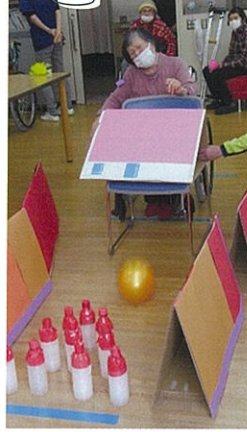


# 村ひろば

## ■クリスマス会



## 青松苑



## ■ゲーム大会



## 桃の里

### ■正月壁画

正月飾りとして、新春を祝う鶴の壁画や、願い事を書いた絵馬を作りました。

「元気で長生き!」「世界一周したい!」などなど…。職員お手製の桃の里神社に皆様の絵馬を奉納し祈願しました。ご利益ありますように…(^^)



### ■2月の節分 すごろくゲーム

もうすぐ節分という事で、「鬼が島へ行こう! すごろくゲーム」を行いました。

マスには「皆で万歳三唱」や「往復ボール送り」、「勝つまでジャンケン」などいろいろなお題が盛りだくさん! 無事鬼が島へ上陸~(^o^)/ やっつけるぞ~!



## 相談支援センター

### ■福島市暮らしの中の支え合い『お宝』に認定されました!

飯坂学習センターのグラウンドでゴルフを通して健康づくりをしている「飯坂パークゴルフ・グラウンドゴルフ」が福島市より「福島市暮らしの中の支え合いお宝」に認定されました。本来であれば、お宝認定証贈呈式にて福島市より表彰されますが、コロナ禍で中止のため、福島市長に代わって飯坂北地域包括支援センターの舟山所長より贈呈されました。



飯坂パークゴルフ・グラウンドゴルフの神野忠会長(右)



ナイスショット!

参加している方々は、70代から90代までのメンバーです。皆さん、杖を使わずグラウンドを歩き、互いにゴルフの腕を競い合い、高め合い、寒い日も暑い日も練習に励み、大きな声で「ナイスショット!」「強く打ちすぎ!」など声をかけながらプレイし、笑いが絶えません。外に出て、ゴルフをすることで心身ともに健康でいられ、病院にもかからず健康寿命を伸ばせると参加者のみなさんが話されています。笑いは元気の源であり、パークゴルフ・グラウンドゴルフを通して、コロナ禍でも人とのつながりを保ち、生きがいにもなっています。



# けやきの

## けやきの村

### ■ゲーム大会

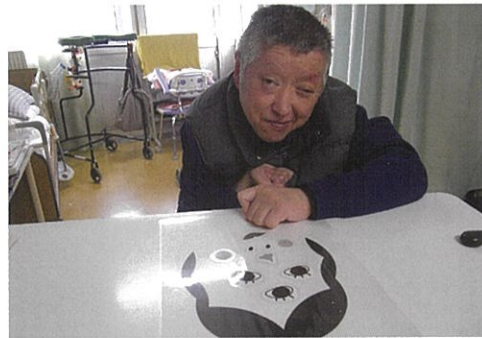
3月にゲーム大会を実施しました。表彰式では皆さん嬉しそうに賞品を受け取りました。



## 静心園

### ■わくわくデイ

1月21日、福笑いを行いました。おかめの枠に目、鼻、口と自由に配置していただき、個性的な顔や面白い顔に仕上がった時には、笑い声や笑顔が見られました。

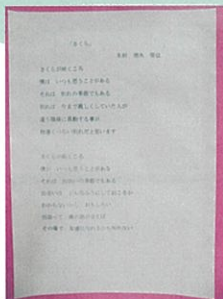


### ■ゲーム大会

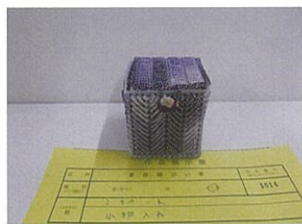
2月8日にゲーム大会が行われ、今回はピンボールを実施しました。一人3球転がして点数を競い、狙った所に球が入ると皆さま大変喜ばれていました。また、得点に応じて上位3名にメダルの授与が行われました。



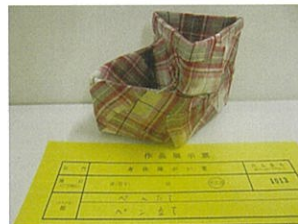
## 福島市福祉作品展



徳永俊也「さくら」



都筑真寿美「ペン立て」



二階堂容子「小物入れ」



静心園創作クラブ「みのむし」



## 寄付 ボランティア・奉仕活動

### 《寄付》

トモト電子工業株式会社 様	青	寄付金
佐藤 正平 様	け	軽自動車
加藤 裕子 様	け	自動車トラック
福島市社会福祉協議会 飯坂協議会中野地区会 様	け青静	梨
福島市社会福祉協議会 飯坂協議会東湯野地区会 様	け青静	りんご
福島駐屯地 曹友会 様	け青静	みかん・りんご
株式会社カニ工管洋商店 様	け	マスク
平野婦人会 様	け	りんご

### 《寄付》

佐藤 武美 様	け	南瓜
渡部 盛夫 様	け	きゃべつ
鈴木 義雄 様	け	筍・桃・梨
遠藤 東美江 様	け	米
木村 忠浩 様	け	米
佐々木 恵子 様	静	西瓜

### 《ボランティア・奉仕活動》

大笹生支援学校 様	け	清掃作業
福島駐屯地 曹友会 様	け青桃	除草作業



【福島駐屯地曹友会様除草作業】



【大笹生支援学校様清掃作業】



【福島駐屯地曹友会様より「みかん・りんご」の寄贈】



【佐藤正平様より「軽自動車」の寄贈】



【加藤裕子様より「トラック」の寄贈】

## 福島市社会福祉協議会 飯坂協議会様より 「歳末たすけあい義援金」の 贈呈

1月24日、福島市社会福祉協議会飯坂協議会  
会長丸山正好様よりけやきの村・青松苑・静心園  
の3施設へ「歳末たすけあい義援金」の贈呈が  
ありました。誠にありがとうございました。



## 編集後記

3月に入り、いよいよ春の到来ですね。ご自身の異動・転勤やご家族の卒業など新生活が始まった方も多いのではないのでしょうか。春は暖かくなり過ごしやすい季節ですが、環境の変化により体調を崩す方も多いそうです。ストレスを溜め込まないためには、気持ちの切り替えられる時間が必要とのこと。気分転換ができる趣味を探してみませんか(●'◡'●)